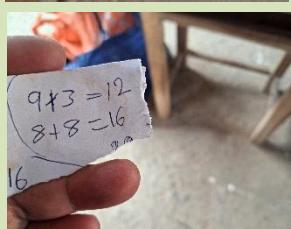


ガーナでそろばんプロジェクト 127 号(2025 年 10 月 30 日)

★★ 指導者としての私の役割、私が務める事 ★★



今月、アガヨボリにクラウドファンディングでそろばんの指導を行きました。3月を最後に行つていなかった中、ある一つの不安がありました。そろばんの授業を熱心に受けていた生徒の所在でした。その生徒は、私の中で中学3年生という認識があったので、卒業をしてしまったのではないか?これからもっと楽しくなるといふだったのに残念だったな、とうう思ひでした。しかし、授業が始まるとその気になつていていた生徒数名が現れたので安心しました。教頭先生がそろばんの指導を熱心にサポートしてくれ、生徒への声かけもしてくれます。そうした中、最初に教室に入つて来た女子生徒は、みんな後ろの席に着き、誰一人として前に座らないのですが、それに対しても“前に座るよう”と声がけするも、女子生徒は移動しないでいるのがとても残念に思いました。中3から中1の合同授業は、アフィフエで授業としてそろばんの指導をしていた時と同じように、心こゝにあらずといふ生徒も数人見かけます。休み時間に自宅に帰り、家事労働をしてきて疲れているという事もあるでしょう、やつした心こゝにあらず状態の生徒をいかに楽しく授業を受けさせるかも私次第なのかもしません。前年度、授業を熱心に受けていた生徒はめきめきとそろばんの計算を理解して五珠から取つて繰り上がる計算が出来るようになつてきています。これからどんどんと楽しくなつてしまつてしまつ。日を空けずして指導に行けるよう努めていきたいです。



一方、アフィフエでは、今月も心穏やかになれない指導のそろばん教室となつてしましました。九九の暗記どうつか、Make10, make5 を全く理解しないまま中学に進学している生徒、自分は出来ぬ生徒だと勘違いしている生徒、全てにおいて優しく指導できず、感情的に怒つてばかりいました。そして追い打ちをかけたのがカணーニングのメモ紙でした。やがて教室に来ていろの」そろばんを使わざ事前に準備していたと思われる紙を見ている生徒、そのメモ紙をびりびりに私は破きました。“ズルをするな! そろばん教室に来るな。一度と来るな“私に怒鳴られた生徒は、目にしつぱに涙を溜めていました。彼にとって私は、図書館にたくさん本を持って来てくれ、授業も楽しい優しいトシコ、トシコ大好き“だったのです。しかし、そんな思いを持つていた私に激怒され、ガーナの体罰ケーンと呼ばれる棒を鞭の代わりに彼に与えなくても、私の激怒は相当怖かったと思います。私も心身ともに疲れました。今月の指導は、指導者として大人として、人として言つてはならない言葉が何度もこれまでに出かかって、最後の理性でそれがやつている事を全て否定してしまつ事に繋がつてしまつのです。そろばんを子どもたちに教えようと思つたきっかけを与えてくれたのも、その当時、棒を書いて計算していた中学生の言葉、トシコ、ぼく十がわかつたんだ、十がわかつたんだよ“という嬉しそうな声と田の輝きでした。十が分かる喜びがあったから今に至るので。その喜びに気づかせる努力をするのは他ならない私なのです。

子どもの学びのサポートに心より感謝いたします。

協賛

トモエそろばん様

報告 TOSHIKO